

「品質保証に係る顧問会」(第7回)議事録(要旨)

1. 日 時 : 平成18年12月7日(木) 15:00~17:05

2. 場 所 : 日本原燃(株) 東京事務所(物産ビル別館6階) 第一会議室

3. 出席者

(1)顧 問

(主 査) : 庄谷 八戸工業大学長

(委 員) : 猪原 大阪電気通信大学教授

小林 (株)日本航空 執行役員

新堀 東北大学助教授

宮村 中央大学教授

(五十音順)

(2)日本原燃

(同席者) : 兒島社長, 平田副社長, 峰松副社長, 池田専務,  
大和濃縮事業部長, 野口埋設事業部長,  
松尾経営企画室長, 桑原品質保証室長, 村上市品質保証室・担任,  
入江再処理事業部副工場長, 青柳再処理事業部技術部長,  
田中再処理事業部技術部部長, 朝日再処理事業部品質管理部長,  
尾川品質保証室副室長, 新沢品質保証室品質保証部長,  
山岡再処理事業部情報システム課長

(事務局) : 高瀬品質保証室課長

4. 議事要旨

(1)開会挨拶

日本原燃より, 開会挨拶を行った。

(2)社長挨拶

兒島社長より, 顧問会の開催にあたり, 日本原燃の近況を含め挨拶を行った。

(3)主査の選任

顧問の委員の互選により, 庄谷委員が主査となり, 挨拶を行った。

(3)第6回顧問会の議事録確認他

日本原燃より, 第6回顧問会での評価・アドバイスに対する対応方針の概要について説明を行った。

(4)品質保証活動の実績

日本原燃より, 日本原燃が実施した平成18年度の主な品質保証活動の実績について説明を行った。

(5)アクティブ試験の実施状況

日本原燃より、再処理工場のアクティブ試験計画及び現在までの実施状況について説明を行った。

(6) 不適合分析の高度化

日本原燃より、不適合管理の改善における不適合分析の高度化について説明を行った。

(7) 技術情報の管理に関する取組み

日本原燃より、六ヶ所再処理施設における技術及び知識情報の管理に対する取組みについて説明を行った。

## 5. 主なアドバイス他

### (1) 品質保証活動の実績

- ① 小集団活動については、他社、他企業のベンチマークすることを経営者自ら推進することをやってほしい。活動にはお金も掛るので、トップが精力的に推進することで、活動の広がりが出てくる。

### (2) アクティブ試験の実施状況

- ① 技術・技能認定制度に係る教育については、マニュアルに従って作業がやれるスキルをしっかりと定義づけして、求められるスキルに合せた教育を行うこと。またマニュアルの書き方によって、教育もきめ細かさが変わって来るので、マニュアルと教育が整合していることが重要となる。マニュアルは企業文化であり、勉強が必要。

### (3) 不適合分析の高度化

- ① 「不適合管理方法」に係る今後の見直し(案)で先行類似事象の迅速な検索とあるが、先行類似事象の迅速な検索については、検索を容易にするためにデータベースの検討をしっかりと行うこと。
- ② 不適合管理の改善は、設備系の安全に係る重要な内容であり、仕組みは見える化することであり、見える化の本質は誰にでも分るようにすることである。そのレベルまでもっていくこと。

### (4) 技術情報の管理に関する取組み

- ① 技術情報管理システムの中の設計図書は、設計者の思想が具現化されたものである。テクニカルな情報だけでなく、設計者の思想を伝承できるようにすること。実作業(詳細設計)は部分であり、思想(構想)は全体を指す。そここのところが大事となる。
- ② 管理システムには、系統番号、機器番号等のインデックスがないと機能しないので、マップとインデックスをしっかりと付けて、現場からのアクセスもできるようにすること。
- ③ コンピュータによる管理システムは、現場の人が使えるかどうかの確認をとること。また、誰が入力するかしっかりと決めて全体のマネジメント、維持管理ができるようにしておくことが必要である。

以上